



真宗大谷派旭川別院

旭川別院だより

春号

2024

発行所 真宗大谷派 旭川別院

輪 番 太田 法生

〒070-0030 旭川市宮下2丁目

TEL.0166-22-2409

FAX.0166-22-2411

■印刷:植平印刷株式会社

■旭川別院ホームページ

旭川別院 | 検索

春彼岸に憶う



帯広市 大昭寺住職

中野 誠 二

住職になる

先日、ある研修会の座談会に参加されていたご門徒が、新しく住職になる僧侶に対して、「住職であることと住職になることは違います。今後、ますます成長していくことを願っています」とおっしゃっていました。私はこの言葉を聞きとても感動して、あらためてその深意をお尋ねしました。すると、「あれは住職に限ったことではないのです。私はお寺の総代をしています。総代であることと総代になることは違うのだと思います。だからこそ、この私自身が仏法から問われ続けなければならないのです」とお話をくださいました。

「ある」は漢字で「有る」や「在る」と書き、「ある空間・範疇に物・事・人が存在・出現することを表す」(『新漢語林』)という意味があります。また、「なる」とは「しあがる、できあがる、完成する」(『字通』の意味では「成る」と書き、「発芽生成の象を示す字。すべて新しい生命のおこることをいう」(同前)という意味では「生る」と書くそうです。

愚者になる

親鸞聖人は関東のご門弟にあてた、日付の残る最晩年のお手紙の中で、かまえて、学生沙汰させたまひ候うべし。故法然聖人は、「浄土宗のひととは愚者になりて往生す」と候いし(『末燈鈔』真宗聖典六〇三頁・点ルビ筆者)

と、述べておられます。半世紀以上も前に師法然上人から聞いたお言葉を、あたかも昨日のことのように述懐し認めています。それは、師の教えを知識として終生握りしめたのではなく、いかに身をもつて聞き、耳の底に留めておられたかを物語るものでしょうか。

このお手紙は、地震や洪水をはじめとする天災に見舞われ多くの死者が出る中、「生死無常のことわり」(同前)を聞くことの大切さを述べ、決して学者ぶつた議論をせずに浄土往生を遂げることが願う内容です。「浄土宗のひと」、つまり、浄土の教えを聞く人は理知や才覚で救われるのではなく、愚者に帰り、愚

者になることによって救われることを明示しているのでしょうか。だからこそ、単に愚者であるのではなく、「愚者になりて往生す」と言われるのです。

本願成就と煩惱成就

先ほどの「なる」は、「成る」の意味からすると「成就」とも言えるでしょう。親鸞聖人は「成就」について、諸有衆生、その名号を聞きて、信心歡喜せんこと、乃至一念せん。至心に回向せしめたまえり。かの国に生まれんと願すれば、すなわち往生を得、不退転に住せん。ただ五逆と誹謗正法とをば除く(『教行信証』真宗聖典二二二頁)

の『大無量寿経』の文を、第十八願が成就した文、「本願成就の文」(同前)としてとても大切にされています。「乃至一念せん」までの前半部分を「本願信心の願成就の文」(同 真宗聖典二二八頁)と呼び、「至心に回向せしめたまえり」からの後半部分を、「本願の欲生心成就の文」(同 真宗聖典二二三頁)と呼んで、いることがその証でしょう。つまり、親鸞聖人が「成就」と言われるのは、阿彌陀如来の本願に関することなのです。

しかしそれは、決して私たちと無関係なものではありません。

世尊、我一心に尽十方の無碍光如来に帰命したてまつりて、安楽国に生まれんと願す。(中略)「莊嚴清浄功德成就」とは、「偈」に「觀彼世界相勝過

三界道故」と言えり。これいかに不思議なるや。凡夫人、煩惱成就せざるありて、またかの浄土に生まれることを得んに、三界の繋業畢竟して牽かず。すなわちこれ煩惱を断ぜずして涅槃分を得。いづくぞ思議すべきや、と。

(同 真宗聖典三二四頁・中略筆者)

親鸞聖人は、この天親菩薩と曇鸞大師の文を引かれて、清浄功德によって莊嚴され成就する浄土に、一心つまり信心によつて、煩惱を成就している凡夫人がそれを断ぜずして生まれることを述べています。まさに、本願や浄土の成就は、この身に煩惱が具足し成就していると頷く凡夫の誕生と同時にだったのです。

浄土からの問いかけ

先月は春のお彼岸の時季でした。それは、浄土に還っていかれた亡き人を偲ぶとともに、自分自身への浄土からの問いかけに耳を傾け、自らの生活を振り返る大切な期間です。彼岸とは阿彌陀仏の浄土のことですが、それは私たちが生きる此岸としての穢土と私自身を照らし、問いかけてくださる仏さまのはたらきのことです。

ある日、ラジオから「私が私自身になることが、人間の最大の責任です」との、加藤諦三さんの声が聞こえてきました。今でも私には、冒頭のご門徒の言葉が彼岸としての浄土からの問いかけとして、まざまざと聞こえてきます。「あなたは、聞法によつて愚者なるあなたになつていくという、あなた自身の最大の責任を果たしていますか」と。

※一九三八年東京都生まれ。作家。早稲田大学名誉教授。四十一年以上パーソナリティをつとめるニッポン放送系ラジオ番組「テレフォン人生相談」に出演中。(公式ホームページより)

法座・行事案内予定

4月			
1日	午後7時	公開学習会	畠山 明光師
7日	午後1時	群萌の会	列座
8日	午後1時	マヤの会	列座
13日	午後1時	初心の集い	輪番・列座
16日	午後1時	同朋の会	列座
18日	午後1時	婦人会	列座
20日	午後7時	壮年の集い	列座
28日	午後1時	定例法座	中西 志香師
未定日	あゆみ会		列座
5月			
1日	午後7時	公開学習会	畠山 明光師
7日	午後1時	群萌の会	列座
8日	午後1時	マヤの会	列座
11日	午後12時	しんらん誕生会	列座
16日	午後1時	同朋の会	輪番・列座
18日	午後1時	婦人会	列座
28日	午後1時	定例法座	中西 志香師
未定日	あゆみ会		列座
6月			
1日	午後7時	在家報恩講参り	
1日	午後7時	公開学習会	畠山 明光師
7日	午後1時	群萌の会	列座
8日	午後1時	マヤの会	列座
15日	午後7時	壮年の集い	列座
16日	午後1時	同朋の会	列座
18日	午後1時	婦人会	輪番・列座
28日	午後1時	定例法座	中西 志香師
未定日	あゆみ会		列座
7月			
1日	午後10時	永代経会	輪番・列座
1日	午後7時	公開学習会	畠山 明光師
10日	午後6時	公開講演会	鈴木 君代師
11日	午前7時	暁天講座	鈴木 君代師
7日	午後1時	群萌の会	列座
8日	午後1時	マヤの会	列座
13日	午後1時	初心の集い	輪番・列座
16日	午後1時	同朋の会	列座
18日	午後1時	婦人会	輪番・列座
20日	午後7時	壮年の集い	列座
未定日	あゆみ会		列座

輪番感話 ⑫

私は年齢を重ねるにつれて、決めています。決めていることが多く、間違いないと思ひ込み、だんだん頑固になっていくのである。

自宅のこと、今日は朝から忙しく午前中から学習会や葬儀もあったので、いつもより早く起きて、お仏供を用意し、お朝事を勤め、家族よりも先に朝食を食べようと思ったのである。茶碗に熱いご飯をよそい、目玉焼きと納豆、焼き海苔で食べていたが、いつもの茶碗より少し変だなと感じながら食べていた。食事が終わり、食器を流し台の水桶に入れて、慌ただしくその日の支度をしていた時、台所から「私のお茶碗が無い……!」と家内の声がした。えっ「もしかして間違ったかな?」どうりでお茶碗が少し小さいなと思っていたのである。「ああ、ごめん、間違ったわ」

と喧嘩にならぬよう一応はすぐに謝ったのである。

「あなた自分のお茶碗ぐらいわからないの!」そう言われて返す言葉はないのである。いつも自分が使っている茶碗と、家内の使っている茶碗では、まるで柄が違うのであるから、日頃の思ひ込みは相当なものである。

いつも見て使っている自分の茶碗の柄も、普段は正確に思ひ出す事が出来ないほど、無関心なものであった。

私たちもいつも見ているように、思い込みによって判断を間違えていることが多くあるのではなからうか。それはなにも茶碗だけではなく、他人や社会をして自身に対してでもそうなのである。「私は経験と知識を頼りとして、分かっている、分かったつもり」



旭川別院 境内

り」として迷いを深めているのである。その深い迷いの闇を破ってくるのは、ただまことの事実、まことという言葉である。

『無明とは何も分からないことではない、すべて分かったつもりでいる心のことだ』(宮城 顕先生)

公開講演会。暁天講座のご案内

●公開講演会

・日時 七月十日(水) 十八時〜二十時
・会場 大谷ホール

講師



真宗大谷派僧侶・シンガーソングライター
鈴木 君代 師

●暁天講座

七月十一日(木) 七時〜八時十五分迄・会場 本堂
※パンとお飲み物をご用意しております。

●公開講演会

・日時 九月十日(火) 十三時半〜十五時半
・会場 大谷ホール

講師



名古屋市長善寺前住職
蒲池 勢至 師

皆様のご聴聞、お待ちしております。



↓ 暁天講座



↑ 公開講演会

前進座特別公演

■期 日

二〇二四年八月四日(日)
十四時三十分開演(十四時開場)

■場 所 旭川市公会堂

■お申込み・お問い合わせ

前進座全国公演事務所

電話 〇四二二・四九一・二六三三

(担当 樺山麻紀子)



公開学習会のご案内

昨年に引き続き四月から真宗寺・畠山明光先生にご出向いただき、公開学習会を開講します。どなたでも是非この機会にご参加下さい。

期 日

令和六年度
(年九回)二月、八月、十一月は
お休みです)
毎月一日 午後七時より
八時三十分頃まで

講 場

旭川別院二階広間
畠山明光 師

学習内容

(真宗大谷派真宗寺前住職)
歎異抄『真宗聖典』(東本願寺出版部)をお持ちの方は
ご持参ください。

会 費

五〇〇円
※途中からの参加も可です。



しんらん誕生会

二〇二四五月十一日〜十二日

日 程

五月十一日(土)

十九時 坊主バー (有料)

五月十二日(日)

十時

十一時三十分

十二時〜

開会式 新門徒初参式 記念講演

こども初参式

エイサー クイズ大会 ビンゴゲーム

雪駄飛ばし大会 キッチンカー

など沢山のイベント豪華な景品を用意しています。

昨年は二日間五〇〇人ほど来院いただくなど別院の大きな行事となりつつあります。どなたでもご参加いただけます。お誘い合わせのうえおこしください。

時間・内容について変更になる場合もあります。

詳細につきましては旭川別院までお問い合わせいただくかホームページをご確認ください。





中陰について

中陰はインドと中国、日本の考え方が重なり成立していきました。人の死後七七日、すなわち四十九日間を指します。

有情(生きとし生けるもの)が迷いの世界に流転(生死を繰り返すこと)する課程を、

本有 母親のお腹に命が宿り生まれてくる時

生有 生きている間

死有 (やがて)必ず死んでいく

中有(中陰) 死んだ者が新しい、いのちへと生まれ変わる間の四有とし、死の瞬間から次の生を受ける期間が七七日です。

死後七日ごと四十九日の満中陰までを修する法要を中陰法要と言います。

真宗では死に別れた故人を偲びつつ、私自身が仏さまの教えに接し、亡き人を通じて我が身のあり方をいただくことです。

ここに私達真宗門徒にとって、中陰法要の大切な仏事の意味合いがあります。(小宮山)

葬儀について

近年の社会状況の中、従来の形態は、枕勤めに始まり通夜・葬儀・還骨勤行と勤まります。色々な事情もありますが、旭川別院では、改めてそれぞれの意味を大切にしてお参りくださればと思います。

●「枕勤め」とは
これは亡きご本人に代わって頂きたいのちにお礼を申させて頂くお勤めでもあります。

●「通夜」とは
「夜伽」と称し、人が死んだ時、その近親や知人等が集まって、遺体や遺骨の側で、故人をしのび、遺族を慰めて夜通しする。『(真宗事典)とあるように、生きていた方との最後の一晚、共に過ごす貴重な時間です。浄土真宗では、『正信偈』をお勤めします。

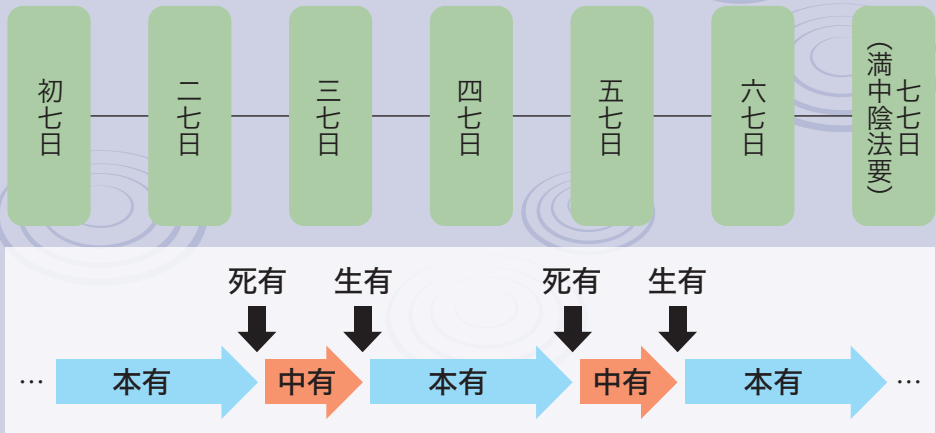
●「葬儀」とは
なによりもご本尊を中心にいのちの故郷(お浄土)に還られた亡き方の葬儀を通して、縁者の方のいのちのゆくえ、お浄土を願うことでもあります。

●「還骨勤行」とは

お骨は小さな箱に収まり、新たな悲しみが込み上げる中に、生と死のいとなみが問われる仏事です。このように、一連の葬儀の形態は「亡き方を偲び仏さまの教えに遇う」大切な仏事を意味します。尚、葬儀に関しての問い合わせは別院までお連絡下さい。別院では仏教本来の儀式に基づいたご葬儀・会場が使用できます。



七仏事



初心の集い

身近な仏事と輪番連続講話 年七回

令和六年四月より列座と輪番のお話を中心に開講します。初めてお寺にいかわりを持たれる方、是非お待ちしています。

日時 毎月十三日 午後一時から三時

(五月、六月、八月、十一月、一月はお休み)

場所 旭川別院本堂(冬期は一階広間になる場合あり)

内容 お勤め・身近な仏事等(列座)・輪番のお話
持ち物 念珠・勤行本(貸し出し可)

会員制ではありません。皆さんお待ちしています。(すべて無料です)



永代経法要のご案内

「永代経」とは、永代にわたり読経を通して、仏さまの言葉(教え)にふれ、私と私に続く縁のある人達が出会い、生きる意味を問い続けていく御仏事です。私に先立って人生を歩み人生を終えていかれた大切な方々の「死」をご縁にして、仏さまの教えに身を据えて私自身を学ばせていただくことです。永代経法要は、「私に人として生きるとはどういうことを教えて下さる仏さま」と遇わせていただく尊いご縁です。

日時 令和六年七月一日〜七月十日迄 午後一時〜 本堂

※午後一時より法話(三十分)その後、読経が勤まります。

午後二時半までには終了予定です。

旭川別院大谷婦人会総会のお知らせ

日時 四月十八日(木)午後一時〜三時

内容 総会・法話(輪番)

会場 大谷ホール一階

※旭川別院壇家の女性、全員婦人会員です。是非、お待ちしております。

※お茶・お菓子を用意しています。

毎月の例会内容 午後一時〜三時(9月は報恩講)

・お勤め

・太田輪番の法話

・ビデオ又はお話

・輪番を囲んで座談会

*太田輪番のお話が聞けますので是非、お参り下さい。

幼稚園型認定こども園 旭川別院附属 大谷さくら幼稚園

旭川別院附属大谷さくら幼稚園便り

二〇二四年になりました。年明けすぐに大きな自然災害がありました。子ども達と、水や電気が使えることは当たり前前のように実はそうではないんだよね、という話しをしました。資源や自然を大切に過ごしていくことが、未来を豊かにしていく、ということを感じています。

幼稚園で日々過ごす子ども達は、豊かな自然の中で、冬の自然を五感で感じました。

クラスの様子

*0歳児 ひよこ組



手づかみ食べから、スプーン食べへ…食べたい気持ちを大切にしています。

*1歳児 りす組



小麦粉粘土…丸めたり、引っ張ったり…。

*2歳児 うさぎ組



水性ペンで作った色水を持って大谷の杜へ雪のアイス屋さんごっこが始まりました。

*3歳児 こあら組



雪に色水をかけて、色々な味のかき氷を作ります。

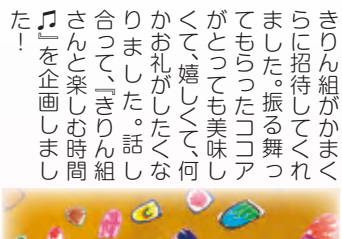


見立て遊びでは、少しずつお友達とやりとりをする姿が見られるようになってきました。

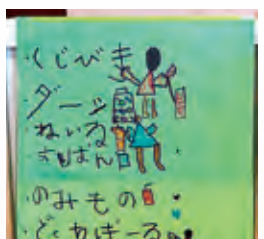


園庭の雪山での遊びは、登山の様です。

*4歳児 ばんだ組



カラフルなネイルを作りました。



看板です。



蒸しパンの試作中「いい匂い♡」



かまくらの中で飲むココア「美味しい♡」

★食育

お楽しみバイキング



うさぎ組はお部屋がバイキング会場に、食べたい物を選びます。



「ソースかけますか？」きりん組が小さい組さんに配膳してくれます。

お楽しみメニュー

世界の食事をテーマに、台湾、アメリカ、イタリアの料理をいただきました！地図、観光地の写真を見て、外国に少し興味を持つことができました。



メニュー☆ホットドック・ポテト・チリコンカン・コブサラダ・バナナスプリット

★冬のおでかけ



園舎裏の堤防散歩。沢山歩いて体がポカポカ。寝転がって「気持ちいい〜！」



冬の旭山動物園。会いたい動物を決めて、グループに分かれて見学してきました。

*5歳児 きりん組の活動

昨年、かまくらを作った焼き鳥、焼きマシムマロを食べた事を思い出して、今年も「美味しい物をかまくらで食べたい〜」と、かまくら作りが始まりました。何日もかけて雪の山を作り、友達と協力して穴を掘り、大きなかまくらが完成。話し合いを重ねて、「かまくらパーティー」を計画。焼き鳥、かぼちゃスープ、ソーセージ、焼きマシムマロをいただきました。自分達が楽しんだ後、小さい組さんにも楽しんで欲しい！という気持ちで芽生え、話し合い、うさぎ、こあら、ばんだ組の子ども達を招待し、ココアを作った振る舞いしました。

★美容室体験



本物の美容師さんが来てくれました。髪の毛のセット、バリカン体験をさせてもらい、美容師のお仕事について沢山質問に答えてもらいました。



優しく育てくれたきりん組の子ども達。卒園おめでとうございます。

ご門徒の声

「寺子屋」の夢いまだ一度



門徒 鈴木 康弘

▼その昔…明治二十三年（一八九〇）旭川村開村。

旭川別院ができ、翌年寺子屋ができました。生徒の中には上川地方初めての和入定住者鈴木亀蔵とピリカメノコの間の子鶴蔵や後に旭川市長になった坂東幸太郎（現旭山動物園長の祖父）もいました。まさしく僧侶久教淵（ひさしきょうえん）師が旭川教育発祥の基を築かれました。

▼やや？昔…昭和十八年（一九四三）戦時中。

小生、五条三丁目で生まれる。附近は寺町。善光寺、眞久寺、大休寺、慶誠寺が。もちろん徒歩一〇分には別院も。ここは、遊び場、交流、知識の場でした。幼稚園、小学生の時は習字教室、境内での野外映画も楽しみでした。西高（当時は五条四丁目）学生の時は文化祭の万燈作りの場所。

最も記憶に残っているのは、お盆に家族みんなでお寺参り、旧納骨堂の六角堂の上から見えた忠別川、山並みの展望が見事だった。境内での梅干しおにぎりご馳走だった。このように日常の生活とお寺が一体でした。

▼そして今…高齢まっさかりの私傘寿。

ある本でアクティブシニアライフの秘訣は、「キョウイク」「キョウヨウ」との言葉。「教育」「教養」ではなく「今日、行く所がある」「今日、用事がある」との言です。

今まさに心地よい「居場所」の中心としてお寺の役割が大事かと。老若男女が交流できる場所としていかにあるべきか？皆んなで「寺子屋づくり」「ワイワイガヤガヤやりませんか？

うどんダ

ご門徒さんのご自宅での法事中、お勤めをする私のそばに一匹の猫がやってきて、お腹を向けて寝転がり、法事が終わるまでその場で仰向けになっていました。ご門徒さんによると、そこが猫のお気に入りの場所のようです。

お念仏の道を歩まれた念仏者のお一人に浅原才市（あさはらさいいち）さんという方がいます。才市さんは次のような歌を詠まれました。

才市や 如来さんの前に つかつか 何ちゆこと ちよつとは遠慮せい

遠慮すれば 親が泣きなさるよ

これは才市さんの自問自答と言われ、遠慮せいという思いを抱きつつ、遠慮すれば阿弥陀様（如来さん）親が泣きなさると詠われます。

この歌から猫と異なった姿の私が知らされます。仏様に向かい頭を下げる「私ですが、ここには僧侶として立派に見られたい」という思いがあります。一方、その猫は全く取り繕うという思いがないのです。その姿はまさしく才市さんの詠まれた歌のお心そのものではないでしょうか。

猫の姿は、人の目を気にして恭しく頭を下げる私に、阿弥陀様の御前では取り繕う必要はなく、遠慮もいらぬと教えています。阿弥陀様は自身の思いに縛られる私の日暮らしを照らし、今ここに

ある私のままに生きる力を与えてくださるのです。ここに自（おの）ずと手が「合わさり」、頭が「下がる」のでしょう。

（水上）

真宗大谷派 旭川別院

歴史ある本来の姿での儀式

旭川別院を会場とした葬儀式が執り行えるよう準備を致しました。亡き故人とのお別れを告げるだけの告別式ではなく、故人との繋がりを大切に、仏教本来の儀式に基づいた葬儀です。どうぞご利用下さい。



大谷ホールは、大きな会場で設備も豊富に備わっております。小規模でなくとも野卓でお葬式をされたい方は是非ご利用ください。



使用料（葬儀・会場費込）

- 各広間 …… 100,000円（税込）
- 大谷ホール …… 150,000円（税込）

※詳細は別院迄 TEL 0166-22-2409